

いたからには、上限額を制限するのは、

(手紙文化研究者、イラストも)

管九筆か  
いってきた。  
拓」社長)

(佐藤仙務)「仙

あすの紙面

### 東日本大震災9年

# 被災地発「会計かるた」

東日本大震災の被災地に毎月通い、中小企業の経営相談に乗っている名古屋市千種区の公認会計士、山田英裕さん(四巴)が、会計の基礎知識を楽しく学べるかるたを作った。被災地で企業の再建に取り組む中で、会計や財務の知識が復興を強く後押しすることを実感。会計の堅苦しく、難しいイメージを変えようと、一昨年、岩手県陸前高田市に会社を立ち上げ、準備してきた。地元の金融機関などの融資を受け、二月から全国販売している。(吉田瑠里)

## 名古屋の支援者発案



楽しみながら会計用語を学べる勘定絵科目かるた

## 専門用語楽しく「企業再建知識が力」

「買って売り 手許に戻って また買って 商い回す 現金預金」「売る相手 信じ て許す ツケ払い 入金待ち の 売掛金よ」

の専門用語が題材。主な百用語を選び、五・七・五・七・七で説明している。その一つ、「研究開発費」は企業が新しい技術や製品を生み出すお金で、将来性を見るヒントに。「給与手当」を同規模の企業と比べると、売り上げをどの程度従業員へ還元しているか分かる。「勘定科目を理解し、決算書が読めると、会社の現状や問題が見え、対策も分かる」

山田さんが作った「勘定絵科目かるた」の読み札。会計用語の「現金預金」と「売掛金」を短歌風に説明し、絵札にイメージが描かれている。

勘定絵科目かるたは、決算書や帳簿付けなどの基礎で、「勘定科目」と呼ばれる会計

「あんしん生活」の前で話す山田さん(右)と、同社の津田さん(左)岩手県陸前高田市で(山田さん提供)



勘定絵科目かるたは、決算書や帳簿付けなどの基礎で、「勘定科目」と呼ばれる会計

勘定科目を理解し、決算書が読めると、会社の現状や問題が見え、対策も分かる」

名古屋学院大の曾場七恵講師(三)が監修。案内役のキャラクター「えかもくん」も作り、ゲーム感覚で楽しめ、会計を学ぶ学生や企業の新人研修などでの活用を想定する。山田さんは陸前高田市の産業を支援する名古屋市の専門家派遣事業に参加。一四年から五年間、年四回ほど中小企業の経営相談に乗った。助言で業績を回復した会社も多く、現在、陸前高田市と宮城県気仙沼市のホテルやカフェなど七社と顧問契約を結ぶ。その一社で陸前高田市の食品加工会社「あんしん生活」は震災で作業場が浸水し、元請け会社は廃業。家族を亡くしたり、家が流されたりした従業員もいた。

同社の津田勇輝さん(三)によると、震災当時はNPO法人で、再建に向けて株式会社として、販路をゼロから開拓する中で山田さんと出会い、専門知識に基づく助言が役立った。震災後赤字が続いたが、昨年度黒字に。津田さんは「経営改善には、会計を理解することは避けて通れない。」「以前から会計の面白さを伝えたいと思っていた」という山田さん。復興に取り組む人たちのエネルギーに触れ、被災地から思いを発信しよう、会計に親しめる教材開発を主に行う「アミューズ会計社」を設立した。

かるたには相談に基づく経営アドバイスを含めたものも。「土地」の読み札「お客様に親しまれば、未永く商い続くよ、ゆかりの土地では、被災した同市の酒蔵から学んだ教訓。隣の大船渡市に移った後も地元客に愛され続けており「被災しても顧客に支持されていけば、会社は残ると教えられた」。七百万円で四千セットを製作。資金は気仙沼信金の融資と岩手県の補助金、同県のNPO法人運営のクラウドファンディングなどで集めた。山田さんは「被災地から、会計に親しむを持つ事業者の輪を広げ、日本の経営力の強化につなげたい」。一セット二千五百二十円。問い合わせはアミューズ会計社(電0120)946833か、ホームページ「えかもくん」で検索へ。